



2007年10月17日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイ
代表者名 代表取締役会長兼社長 佐保井 久理須
(コード番号:2160 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役 CFO 鈴木 勘一郎
(TEL. 03-3580-0751)

GNI が炎症に関連する重要な新規制御因子を同定

[2007年10月17日 東京] 日本と中国で事業展開するバイオ創薬グループの株式会社ジーエヌアイ(本社: 東京都千代田区、代表取締役会長兼社長・医学博士: 佐保井 久理須、以下ジーエヌアイ)は本日、子会社の上海ジェノミクスが、炎症を制御する上で重要な新規制御因子を同定したことを発表いたしました。研究成果は、医学・生物学系の学術雑誌である *Biochimica et Biophysica Acta* (BBA) の2007年11月号に掲載予定で、オンラインでは以下のアドレスで既に公開されています。

(<http://dx.doi.org/10.1016/j.bbagen.2007.07.010>)

TNF/NF- κ Bシグナル伝達系は、炎症、免疫応答、プログラム細胞死を制御する上で重要な役割を果たします。そのシグナル伝達系の鍵分子である NF- κ Bの異常な活性化は炎症や自己免疫疾患をもたらします。製薬企業はこうした免疫に関連した疾患の治療薬を開発するために、長い間 TNF/NF- κ Bシグナル伝達系をターゲットにした研究を進めてきました。鍵分子である NF- κ Bの新たな活性化因子の同定により、ジーエヌアイでは新たな創薬ターゲットを獲得しました。その新たなターゲットは関節リウマチや炎症性腸疾患など炎症系疾患の新規治療薬の開発につながると期待されています。

ジーエヌアイのCSOで共著者のジュン・ウー(Jun Wu)博士は以下のように述べています。「これまで当社は、米国科学アカデミー紀要(PNAS)などの各種学術雑誌に先進的な研究成果を発表してきました。今回の発表で当社の創薬ターゲット開発プラットフォームを通じた研究力が改めて認知され、非常に嬉しく思います。今後も引き続き、独自の研究開発や外部機関との共同研究を通じて医薬品パイプラインの拡充に努めてまいります。」

ジーエヌアイについて

2001年設立のバイオ創薬企業、活動拠点を日本と中国に有する。ジーエヌアイは、ヒト遺伝子ネットワークによる解析に成功、遺伝子ネットワーク技術を医薬品開発に応用しており、中国において臨床段階にある創薬候補物を複数パイプラインに持つ。2005年に中国上海ジェノミクスを傘下に収めたことにより、上海における研究および開発の拠点を構築した。両社の統合は、主要な世界的製薬会社との共同研究に結びついている。詳細は <http://www.gene-networks.com/>、<http://www.shanghai-genomics.com> をご覧ください。